

倫理学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期》

担当者

坂本哲朗

授業の概要

「人間って本当にいいものかしら」という言葉が、児童文学作品の中にある。青年期の学生が社会有用の人材として、本物の大人、社会人になるためには、人間とは何かについて学びあい、より良く生きることについて考える習慣を身につけたり、結論を得たりする必要がある。スポーツ、ビジネスなどの応用倫理学で思考を深め、生き方を探る。

到達目標

- ・人間とは何か、私は何かなどの疑問や課題を把握することができる。
- ・発見した課題について主体的に取り組み、個としての結論を得ることができる。
- ・自己の思考判断や結論をもとに、他者との比較検討や議論により、学び合いができる。
- ・「人間とは何か」について、自己の表現力、表現方法で伝えようとする事ができる。

事前事後学習

日常的に善悪や生き方について関心を持ち、責任ある行動を取ろうと心がけて生活する。「より良く生きる」「我は我なり」などの言葉との出会いを大切に、記録に留めておく。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	ようこそ倫理学「人間って本当にいいものかしら」	1	
2	道徳教育 I 人間の魅力と魔力	2	
3	道徳教育 II 重要ポイントと展望	3	
4	義務と責任 I	4	
5	義務と責任 II	5	
6	善と悪 I	6	
7	善と悪 II	7	
8	表現の自由 I	8	
9	表現の自由 II	9	
10	スポーツは公平・平等 I	10	
11	スポーツは公平・平等 II	11	
12	貨幣の倫理学 I	12	
13	貨幣の倫理学 II	13	
14	小論文作成	14	
15	小論文発表会・意見交流	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(45%) レポート(55%)

テキスト

「本当にわかる倫理学」田上孝一 日本実業出版

参考文献・推薦図書

「もういちど読む山川倫理」小寺 聡 山川出版社
「熊本の心」熊本県教育委員会編

関連のある授業科目

倫理学 II

資格等

なし

倫理学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期》

担当者

坂本哲朗

授業の概要

「人間とは何か」について自己に問い続けることが、社会有用の人材となるには必要である。益々、高度情報化社会が進展する中で、ともしれば自己を見失い、自己有用感や自尊感情を獲得することなく、辛く困難な人生を歩んだり、自己否定の結果、生命の否定に及んだりすることもある。本授業では、多数と少数、存在と外見などの対立概念を現実の生活から問い、生きる価値について学び合う。人間はみんな本当にいいものなんだ。

到達目標

- ・人間とは何かの疑問や課題を把握することができる。
- ・自己の思考判断や結論をもとに、他者との比較検討や議論により、学び合うことができる。
- ・課題について主体的に追及し、検討の結果を踏まえて、自己の結論を得ることができる。
- ・追求・討論と通じて、人と社会の規範を問い続けようとするすることができる。

事前事後学習

日常的に善悪や生き方について関心を持ち、責任ある行動を取ろうと心掛けて生活する。「より良く生きる」「我は我なり」などの言葉との出会いを大切に、記録にとどめておく。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	さらに倫理学「人間はいいものか」
2		2	多数と少数Ⅰ
3		3	多数と少数Ⅱ
4		4	宗教と人間Ⅰ
5		5	宗教と人間Ⅱ
6		6	自殺と自由Ⅰ
7		7	自殺と自由Ⅱ
8		8	ギャンブルと自由Ⅰ
9		9	ギャンブルと自由Ⅱ
10		10	情報と倫理学Ⅰ
11		11	情報と倫理学Ⅱ
12		12	倫理学散歩Ⅰ 多様な人間文化
13		13	倫理学散歩Ⅱ 「人間は本当にいいものか」
14		14	小論文作成
15		15	小論文発表会、意見交流

成績評価基準及び方法

学習態度(45%) レポート(55%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「本当にわかる倫理学」田上孝一 日本実業出版	「もういちど読む山川倫理」小寺 聡 山川出版社 「熊本の心」熊本県教育委員会編
関連のある授業科目	資格等
倫理学Ⅰ	なし

文学Ⅰ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期》

担当者

山本八重子

授業の概要

本講義では、詩歌、随筆、小説などいろいろな文学作品を学習し、輪読やグループでの話し合い等を通して、読解力を付けるとともに読む楽しさを味わうことができるようにする。なお、熊本・八代に関連のある作家や作品も取り上げる。お互いの読みを交流し、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の総合的なコミュニケーション力を養う。

到達目標

- (1) 大学生として、集中して「読むこと」の技術を習得し読解力を伸ばすことができる。
- (2) ものの見方・考え方を学び、自己を見つめ視野を広げることができる。
- (3) 文学作品に関心を持ち、読書の楽しさを味わうことができるようにする。

事前事後学習

《事前学習》 講義該当の文章を通読し、難語句の意味を調べておく。
《事後学習》 学習した作品を読んでまとめておく。ノートを整理しておくこと。

回	前期	回	後期
1	授業内容の概要および計画の説明	1	
2	星新一のショートショートを読む。「きまぐれロボット」から	2	
3	星新一のショートショートを読む。構成のおもしろさ	3	
4	詩を読み、鑑賞力をつける。	4	
5	随筆を読み、鑑賞力をつける。岡潔「春宵十話」から	5	
6	随筆を読み、鑑賞力をつける。向田邦子「父の詫び状」から	6	
7	短編小説を輪読する。芥川龍之介「鼻」から	7	
8	短編小説の作中人物の考察	8	
9	短編小説の文体等の考察	9	
10	短編小説の鑑賞	10	
11	短編小説「さすらいの煩惱」(黒川嘉正)を輪読する。	11	
12	短編小説「さすらいの煩惱」山頭火の生き方を探る。	12	
13	短編小説「さすらいの煩惱」山頭火の日奈久の3日間を探る。	13	
14	山頭火の俳句の鑑賞をする。	14	
15	レポートの書き方と作成・まとめ	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、課題レポート(70%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「羅生門・鼻・芋粥」芥川龍之介 角川文庫 その他の教材は作成し配布する。	星新一「きまぐれロボット」・岡潔「春宵十話」・向田邦子「父の詫び状」・黒川嘉正「さすらいの煩惱」
関連のある授業科目	資格等
文学Ⅱ	なし

文学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期》

担当者

山本八重子

授業の概要

文学Ⅱでは、文学Ⅰを踏まえ、登場人物の生き方を学び、読解力をさらに伸ばす。そのために優れた日本文学の韻文・散文に出会い、読み方・学び方を深めて、文章の描写の美しさ・細やかさに気付くようにする。熊本・八代にゆかりのある名作や作家も取り上げ、郷土の自然や先人の心に共感する機会とする。

到達目標

- (1) 地方文学を含めた文学作品を読解し、その良さや美しさを味わうことができる。
- (2) 表現を通して感動した場面を押さえ、自己を見つめ、共感することができる。
- (3) 文学作品に関心を持ち、読書の楽しさを味わうことができる。

事前事後学習

《事前学習》 講義該当の文章を通読し、難語句の意味を調べておく。
《事後学習》 学習した作品を読んで自分の感想をノートにまとめておく。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	授業内容の概要および計画の説明
2		2	短編小説「黄昏の蝶」(黒川嘉正)を輪読する。
3		3	短編小説「黄昏の蝶」作中人物の考察
4		4	短編小説「黄昏の蝶」表現の考察
5		5	熊本出身徳富蘆花の作品を輪読する。
6		6	熊本出身徳富蘆花の作品を輪読する。
7		7	八代に関連のある万葉集を探る。
8		8	八代に関連のある連歌師「西山宗因」を探る。
9		9	熊本ゆかりの「草枕」(夏目漱石)を輪読する。
10		10	熊本ゆかりの「草枕」を輪読する。
11		11	熊本ゆかりの「草枕」を輪読する。(非人情と不人情)
12		12	随筆を読み、ものの見方・考え方を広げる。幸田文「父・こんなこと」
13		13	随筆を読み、ものの見方・考え方を広げる。
14		14	レポートの書き方と作成準備
15		15	レポートの書き方と作成・まとめ

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、課題レポート(70%)

テキスト

「草枕」 夏目漱石 新潮文庫
その他の教材は作成し配布する。

参考文献・推薦図書

黒川嘉正(黄昏の蝶)・徳富蘆花の作品・幸田文「父・こんなこと」 万葉集

関連のある授業科目

文学Ⅰ

資格等

なし

社会学概論 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期》

担当者

坂本哲朗

授業の概要

ヒトはどのようにして社会的人間になったのか。人は社会とどのような関係性を持って生きているのか。具体的事実即して、関係としての人間学を学ぶ。本授業では、身近な社会である家族から始まり、様々な場で法則性を発見する喜びに触れる。特に、祭りを通して絆を深め、社会の発展に貢献してきた姿を理解する。さらに、「町屋とマンションを祭りでつなぐ」活動の具体的展望を探る。

到達目標

- ・ヒトと人間について関心を持ち、主体的に学ぶことができる。
- ・家族や学校など、自分とその社会との関係性の法則を発見することができる。
- ・郷土の祭りに関心を持ち、積極的な調査活動で関係性に気づくことができる。
- ・高度情報化社会における光と影を理解し、自己の主張を公表できる。

事前事後学習

日常的にメディア情報(特に新聞)に注視して、社会事象に関心を持ちノートに記録する。各地、各国の「ふるさとの祭り」について理解を深め、触れ、親しもうとする。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	ようこそ社会学「ヒトから人間へ」	1	
2	家族と人間 I 暮らしと食事	2	
3	家族と人間 II 子育てと介護	3	
4	憲法と人間 I 約束の手紙、日本国憲法	4	
5	憲法と人間 II 各国の憲法	5	
6	学校と人間 I 学校・学級の誕生	6	
7	学校と人間 II 学力・仲間づくり	7	
8	学校と人間 III 学校教育の成果と課題	8	
9	郷土の祭りと人間 I ふるさとの祭り	9	
10	郷土の祭りと人間 II 祭りの記憶	10	
11	郷土の祭りと人間 III 新しい祭りづくり	11	
12	情報社会と人間 I SNS、ロボット文化の時代到来	12	
13	情報社会と人間 II 今後の展望予測	13	
14	小論文作成	14	
15	小論文発表会、意見交流	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(45%)、レポート(55%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「面白くて眠れなくなる社会学」橋爪大三郎 著 PHP研究所	「学級の社会学」蓮尾直美・安藤知子編 ナカニシヤ出版 「地域の社会学」森岡清志編 有斐閣アルマ 各社新聞(学内図書館)
関連のある授業科目	資格等
社会学概論 II	なし

社会学概論Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期》

担当者

坂本哲朗

授業の概要

「町屋とマンションを祭りでつなぐ」の真意は何か。次世代を担う学生が関係としての人間学を追究しその法則性を発見することは極めて重要である。本授業では、スポーツや遊びから始まり、将来の人生設計をも展望し人間学を追究する。特に、職業社会や格差社会については、的確な情報収集や判断分析力をもとに探究する。また、郷土の祭りについては、伝統文化や地域力向上の視点から、新たな時代の祭りの創造を模索する。

到達目標

- ・スポーツや遊びの経験から、仲間・友達の間を探究しあうことができる。
- ・八代の祭り「妙見祭」の調査を通して、関係の人間学を学ぶことができる。
- ・格差社会に興味を持ち、多様な情報から選択して思考できる。
- ・職業社会(職場)における人間学を学び、討論することができる。

事前事後学習

日常的にメディア情報(特に新聞)に注視して、社会事象に関心を持ちノートに記録する。各地各国の「ふるさとの祭り」について、理解を深め、触れ親しもうとする。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	さらに社会学「町屋とマンション・・・」とは何か
2		2	スポーツと人間Ⅰ 遊びの経験に学ぶ
3		3	スポーツと人間Ⅱ 競技、芸術、人生の明暗
4		4	八代の祭りと人間Ⅰ 伝統文化としての妙見祭
5		5	八代の祭りと人間Ⅱ まちづくりとしての妙見祭
6		6	八代の祭りと人間Ⅲ 若者による祭りの創造
7		7	宗教と人間Ⅰ 様々な宗教文化
8		8	宗教と人間Ⅱ 生物社会の宿命
9		9	戦争と人間Ⅰ 争い、ケンカ
10		10	戦争と人間Ⅱ ムラから国へ
11		11	格差社会と人間Ⅰ 資本、労働、土地の確立
12		12	格差社会と人間Ⅱ 忍び寄る超格差社会
13		13	職業と人間:収入のある仕事、職業選択
14		14	小論文作成
15		15	小論文発表会、意見交流

成績評価基準及び方法

学習態度(45%)、レポート(55%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「面白くて眠れなくなる社会学」橋爪大三郎 著 PHP研究所	「地域の社会学」森岡清志編 有斐閣アルマ 各社新聞(学内図書館)
関連のある授業科目	資格等
社会学概論Ⅰ	なし

法学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護選択必修》

担当者

川井健次

授業の概要

社会生活を営む上で数多くの法律(正式な法律名を知らないものがほとんどである)と関わり合いを持ってざるを得ない。たとえば、売買、土地・建物の賃貸、交通事故、家庭における親子関係、相続や新聞の三面記事に載る犯罪、また会社で働く場合の会社との関係などである。これらの法律関係を基礎から考えたい。

到達目標

売買、賃貸借等契約内容の理解、交通事故による損害賠償責任の意味、婚姻・離婚・相続・親子関係についての民法の定め等、最低限度の知識を修得する。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの箇所を授業前によく読んでおくこと。ホワイトボードに板書したことをノートにとり、整理すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	法の意義 法と道徳の違い	1	
2	法の適用 裁判の意味と構造	2	
3	家庭と法 親族関係について(1)	3	
4	家族と法 親族関係について(2)	4	
5	家族と法 相続関係について	5	
6	犯罪と法 犯罪とは何か?	6	
7	犯罪と法 罪刑法定主義	7	
8	犯罪と法 刑罰の意味、内容	8	
9	損害と法 不法行為	9	
10	損害と法 損害賠償義務	10	
11	企業と法 会社の種類	11	
12	企業と法 会社の種類	12	
13	企業と法 株式会社の内容	13	
14	職場と法 労働基準法の意義	14	
15	職場と法 労働基準法の原則	15	

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート等提出(15%)、学習態度等(15%)

テキスト

「基本法学入門」 蓮井良憲・畑 博之著 有信堂高文社

参考文献・推薦図書

「法学入門」 遠藤 浩・久保田きぬ子 有斐閣

関連のある授業科目

法学Ⅱ

資格等

社会福祉主事任用資格

法学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期・介護選択必修》

担当者

川井健次

授業の概要

前期科目の「法学Ⅰ」は、法学全般に対する基本的な理解を目標とするが、「法学Ⅱ」は法学Ⅰの理解を前提として、法律と政治の実践的な問題について説明したい。

到達目標

選挙に関する憲法および公職選挙法の規定、社会権のひとつとして憲法の保障する労働基本権や労働法の原則、さらに裁判に対する原則などを理解する。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの箇所を授業前によく読んでおくこと。ホワイトボードに板書したことをノートにとり、整理すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	政治① 民主主義について
2		2	政治② 政治的イデオロギーの機能
3		3	政治③ 選挙について
4		4	政治④ 現代国家の政治的特質
5		5	政治⑤ ナショナリズムについて
6		6	法律Ⅰ① 憲法の三大原則について
7		7	法律Ⅰ② 国会について
8		8	法律Ⅰ③ 裁判所について
9		9	法律Ⅰ④ 地方自治について
10		10	法律Ⅱ① 民法総則
11		11	法律Ⅱ② 物権法
12		12	法律Ⅱ③ 債権法
13		13	法律Ⅲ① 会社法
14		14	法律Ⅲ② 有価証券法
15		15	法律Ⅳ 労働法の現代的課題

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート・課題(15%)、学習態度(15%)

テキスト

「基本法学入門」 蓮井良憲・畑 博之 有信堂高文社

参考文献・推薦図書

「法学入門」 遠藤 浩・久保田きぬ子 有斐閣

関連のある授業科目

法学Ⅰ

資格等

社会福祉主事任用資格

英語基礎

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期》

担当者

谷川 守

授業の概要

英語の基礎をもう一度学習します。「英語の言葉の使い方」が英文法であると捉え文法の基礎を固め、英語力の向上につなげていきます。「英語応用」を継続科目とします。英語を「読める」「聞ける」「話せる」楽しさを感じていくことができるようにしたいと考えています。

到達目標

英検3級程度の基礎力を身につけるようにします。

事前事後学習

学習予定の範囲の単語などをあらかじめ調べておく。出題されている設問の解答準備をしておく。授業後は学習したポイントを繰り返し復習し確認テストなどに備える。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション、英語学習の意義と方法
2		2	be動詞・現在
3		3	一般動詞・現在
4		4	多様な疑問文
5		5	be動詞・過去
6		6	一般動詞・過去
7		7	前半のまとめと復習
8		8	前半の確認テスト
9		9	特殊な文
10		10	未来形
11		11	進行形
12		12	助動詞
13		13	英文の型
14		14	後半のまとめと復習
15		15	後半の確認テスト

成績評価基準及び方法

定期試験(70%),確認テスト(20%),授業態度(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
First Steps to English Grammar南雲堂、大坂四郎著	随時紹介する
関連のある授業科目	資格等
英語応用	なし

英会話 I

《2単位(演習)／経営福祉学科1年前期》

担当者 **ステュワート雅子**

授業の概要

・知っている英語のフレーズや単語を使って、とりあえず会話をしてみる。
・日常のコミュニケーションの手段として英語に親しむ。
・世界に目を向ける。アメリカ合衆国を始め、諸外国の生活や文化を知り、国際的な視野を広げる。

到達目標

英会話の基礎基本を身につける。

事前事後学習

事前にテキストに目を通しておく。また事後に当日の板書や注意点などをノートに整理しておく。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	前期
1	オリエンテーション	16	日本が正午の時、世界の人々が何をしているのか Q&A
2	挨拶、自己紹介	17	外国にいる友人が、各時刻に何をしているのか Q&A
3	身近な物の名称、場所などを覚える	18	通学、通勤の交通手段 家族の名称
4	スペルを尋ねる、答える	19	家族の通学、通勤の交通手段などを説明する
5	何がどこにあるか説明する	20	1日～1週間のスケジュール
6	世界の国、都市の名称、その場所	21	友人のスケジュールを尋ねる
7	外国からの友人との会話	22	家やアパートの部屋名、ロケーションの説明のしかた
8	世界の国名、国民、言語	23	自分の家やアパート、ロケーションの説明、Q&A
9	人の特徴を形容する	24	家具の名称 理想の家について話す
10	身につける物(衣類など)	25	世界にはどんな家があるかを知る
11	好きなファッション	26	職業名とそれぞれの職場名
12	色、天候	27	いろいろな職業の、仕事内容
13	TPOに応じた服装	28	職業に対するそれぞれの意見
14	世界のタイムゾーン 時刻と時間帯	29	ある人々の、仕事のプロフィール
15	今何をしているの? Q&A	30	英会話 I の内容の総復習

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、定期試験(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「Interchange 3rdED Intro」 Jack C. Richards ケンブリッジ大学出版局	CASIO電子辞書“EX-word”
関連のある授業科目	資格等
英会話 II	なし

英会話Ⅱ

《2単位(演習)／経営福祉学科1年後期》

担当者 **ステュワート雅子**

授業の概要

・自分の考えを言葉にして、会話を楽しむ。
・日常のコミュニケーションの手段として英語に親しむ。
・世界に目を向ける。アメリカ合衆国を始め、諸外国の生活や文化を知り、国際的な視野を広げる。

到達目標

英会話の発展のさせ方を身につける。

事前事後学習

事前にテキストに目を通しておく。また事後に当日の板書や注意点などをノートに整理しておく。

授業計画(項目・内容)

回	後期	回	後期
1	食物の名称、種類	16	生活用品の買い物
2	食事についての会話	17	場所、機関の名称
3	世界の国々の食習慣	18	地図上の場所の説明
4	世界の、幸運を呼ぶとされる食物	19	道を尋ねる 道を説明する
5	季節ごとのスポーツ	20	家庭での仕事
6	できること、できないこと	21	週末の楽しみ方
7	できること、できないこと	22	子供時代と現在の自分の違い
8	月、日の予定 当日の予定	23	出身地(国)や生まれた年
9	アメリカの祝日について	24	育った場所や過程
10	誕生日のできごと	25	アメリカで人気な活動
11	世界の正月	26	電話の受け答え
12	身体の部位名	27	色々な場面に応じた 電話での会話
13	病気や健康上のトラブル	28	呼び出しや、メッセージの伝え方
14	病院での会話	29	まとめ
15	体調のトラブルに対するアドバイス	30	英会話Ⅱの内容の総復習

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、定期試験(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「Interchange 3rdED Intro」 Jack C. Richards ケンブリッジ大学出版局	CASIO電子辞書“EX-word”
関連のある授業科目	資格等
英会話Ⅰ	なし

日本語基礎演習

《2単位(演習)／経営福祉学科1年通年》

担当者

萩田いくみ

授業の概要

【前期】

文献の読解や発表のための日本語の基礎力を養うため、日本語能力試験N2レベルの読解力や文法、語彙の習得を目指します。毎回小テストを行います。た、毎回課題を出します。

【後期】

文献の読解や発表のための日本語の基礎力を養うため、日本語能力試験N1レベルの読解力や文法、語彙の習得を目指します。また、日本語能力試験後はまとめとして、テーマに基づいた演習、簡単な発表を行います。

到達目標

前期では日本語能力試験N2程度、後期ではN1程度の日本語力の習得を目指します。さらに自分の国や日本の文化について自分の考えを日本語で表現し、発表するための日本語の総合的な運用力を養います。

また、日本語能力試験合格を目指します。

事前事後学習

毎授業の前に、必ず当該箇所の語彙を覚えておくこと。

授業後には配布したプリント・資料をファイリングし、整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	日本語能力レベルチェック・オリエンテーション	16	読解文法・語彙15(N1)
2	読解文法・語彙1(N2)	17	読解文法・語彙16(N1)
3	読解文法・語彙2(N2)	18	読解文法・語彙17(N1)
4	読解文法・語彙3(N2)	19	読解文法・語彙18(N1)
5	読解文法・語彙4(N2)	20	読解文法・語彙19(N1)
6	読解文法・語彙5(N2)	21	読解文法・語彙20(N1)
7	読解文法・語彙6(N2)	22	読解文法・語彙21(N1)
8	読解文法・語彙7(N2)	23	読解文法・語彙22(N1)
9	読解文法・語彙8(N2)	24	読解文法・語彙23(N1)
10	読解文法・語彙9(N2)	25	読解文法・語彙24(N1)
11	読解文法・語彙10(N2)	26	読解文法・語彙25(N1)
12	読解文法・語彙11(N2)	27	課題発表のための演習1
13	読解文法・語彙12(N2)	28	課題発表のための演習2
14	読解文法・語彙13(N2)	29	課題発表のための演習3
15	読解文法・語彙14(N2)	30	課題発表会・まとめ

成績評価基準及び方法

小テスト、課題提出(50%)、出席(30%)、学習態度(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
毎回、プリントを配布します。	必要に応じて紹介します。
関連のある授業科目	資格等
	なし

海外研修

《2単位(実習)／経営福祉学科・幼児保育学科1年後期》

担当者

経営福祉学科長・幼児保育学科長

授業の概要

本学では、例年11月下旬から12月の初旬にかけて約2週間のオーストラリアへの海外研修を実施しています。
この研修の主な目的は、異文化に触れながら生活(ホームステイ)や学習(英会話研修・現地の幼稚園・施設等の見学および実習)を体験することです。そのなかで、国際感覚を身につけたり、自分自身の視野を広げることもでき、学生時代の良き思い出にもなる有意義な研修となっています。

希望者のみですが、英会話が多少苦手である方も自由に参加できます。
授業計画(項目・内容)は、昨年度の実施状況を踏まえた内容を記載しています。詳細は後日に提示します。

到達目標

海外での生活の事前準備について理解を深め、研修においてその実際を学ぶ。

事前事後学習

研修先について事前に調べておく。研修後は、体験・歴史等について、学んだことをまとめる。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	事前オリエンテーション1(意義と目的等の説明)
2		2	事前オリエンテーション2(ホストファミリー、準備等について)
3		3	入国手続き、空港・機内における指導
4		4	研修センターにおけるオリエンテーション
5		5	英会話研修、他
6		6	英会話研修と体験学習(乗馬体験)
7		7	英会話研修と体験学習(アクティビティー)
8		8	英会話研修と体験学習(ハーバークルーズ)
9		9	英会話研修と体験学習(フェアウェルランチ)
10		10	英会話研修と体験学習(幼稚園・施設の見学・実習)
11		11	シドニー市内見学および研修1
12		12	シドニー市内見学および研修2
13		13	ホストファミリーとの市内観光および研修
14		14	英会話研修(まとめと修了式)
15		15	体験報告会(参加者による研修報告発表含む)

成績評価基準及び方法

実習(80%)、学習態度(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
随時、資料を配布	随時、参考資料を紹介
関連のある授業科目	資格等
基礎英語・英語応用・英会話Ⅰ・英会話Ⅱ	なし

ライフプランニング I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期／卒業必修》

担当者

坂本哲朗・宇野木広樹・深町修一・
松永智也・水田哲弥・久保英樹・黒木信吾・小川亜矢子

授業の概要

社会人としての基礎能力を身に付け、これからの社会で生き抜くための人生観、職業観を確立させる。

到達目標

- ①就職に対する心構えを早期に確立する。
- ②社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を身につける。

事前事後学習

配布資料がある場合には事前に読んで予習しておくこと。講義後は、習った内容をノート等に各自まとめておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期		回	後期
1	履修指導	全体指導・ゼミ別指導	1	
2	学科ガイダンス	大学での学び方	2	
3	学外研修	オリエンテーション	3	
4	ライフプランニング演習	キャリアデザイン (グループワーク)	4	
5			5	
6	学ぶことと働くということ	関連・意義	6	
7	就職環境の変化	社会で必要とされる人材	7	
8	企業研究	業界・業種・職種	8	
9			9	
10	自己理解	自己分析	10	
11			11	
12	卒業生講和	私が選んだ道(仮題)	12	
13	進路相談	個別面談	13	
14			14	
15	交通安全講和		15	

成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、課題消化状況(60%)

テキスト	参考文献・推薦図書
随時資料を配布する。	随時紹介します。
関連のある授業科目	資格等
ライフプランニング II	なし

ライフプランニングⅡ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期／卒業必修》

担当者

坂本哲朗・宇野木広樹・深町修一・
松永智也・水田哲弥・久保英樹・黒木信吾・小川亜矢子

授業の概要

社会人としての基礎能力を身に付け、これからの社会で生き抜くための人生観、職業観を確立させる。

到達目標

- ①自分らしい生き方を考える。
- ②ビジネスマナーの実際を習得する。
- ③卒業後の進路(職業選択)を明確にする。

事前事後学習

配布資料がある場合には事前に読んで予習しておくこと。講義後は、習った内容をノート等に各自まとめておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	後期オリエンテーション及び履修指導
2		2	ファイナンシャルプランナー講和
3		3	ライフパワーグラフを作ろう
4		4	学園祭について
5		5	学園祭準備
6		6	一般常識①
7		7	身だしなみ・服装・動作
8		8	メイク・ヘア
9		9	アサーション
10		10	コミュニケーションスキル
11		11	文章作成
12		12	履歴書指導
13		13	エントリーの仕方
14		14	一般常識②
15		15	一般常識③

成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、課題消化状況(60%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
随時資料を配布する。	随時紹介します。
関連のある授業科目	資格等
ライフプランニングⅠ	なし

経営学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期》

担当者

川井健次

授業の概要

今日、企業を取り巻く環境はますます厳しくなっている。貿易摩擦、リストラ、環境に対する企業責任、不良債権処理など、企業の個別対応だけでは解決できない課題が山積の状況である。しかし、企業は存続、維持されるべき宿命を負わされている。そこで、経営学 I の講義でこれらの諸問題解決の糸口を理解してもらいたい。

到達目標

資本主義社会における会社の役割、企業の国際化、これからの企業の社会的責任に対する理解を深める。

事前事後学習

授業計画のそれぞれにテーマに関連するテキストの箇所を授業前に読んでおくこと。ホワイトボードに記述したことをノートにとり、整理すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	企業の意義と役割①資本主義社会と社会主義社会	1	
2	企業の意義と役割②大企業と中小企業の区別	2	
3	企業の歴史①企業発展の歴史	3	
4	企業の歴史②生・家業、人的私企業	4	
5	企業の歴史③資本的私企業	5	
6	企業の歴史④現代企業	6	
7	企業の国際化①国際化の意義・動機	7	
8	企業の国際化②国際化の課題	8	
9	企業の国際化③経営資源の移転戦略	9	
10	企業の国際化④金融危機の問題	10	
11	会社形態 合名・合資・有限・株式	11	
12	株式会社①株式の意味	12	
13	株式会社②株式会社の現代的特徴	13	
14	株式会社③株式会社のガバナンス	14	
15	株式会社④株式会社の長所・短所	15	

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート課題(15%)、学習態度(15%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「ゼミナール経営学入門」伊丹・加護野著 日本経済新聞社	配布資料
関連のある授業科目	資格等
経営学 II	なし

経営学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期》

担当者

川井健次

授業の概要

経営学Ⅰにおいて学んだ経営学に対する基礎的理解を前提にして、今日の経営学の課題に積極的に挑戦してみたい。

到達目標

人はなぜ働くか、について人の欲求にまで深めて理解する。また会社側および働く側双方から、働く意欲(インセンティブ)の意味を考える。さらに、日本的経営について、これまでとこれからについて理解する。

事前事後学習

授業計画のそれぞれにテーマに関連するテキストの箇所を授業前に読んでおくこと。ホワイトボードに記述したことをノートにとり、整理すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	人の欲求① マズローの欲求・生理的欲求、安全欲求
2		2	人の欲求② マズローの欲求・愛情欲求、尊厳欲求
3		3	人の欲求③ マズローの欲求・自己実現欲求
4		4	組織のインセンティブ①物的インセンティブ
5		5	組織のインセンティブ②評価的インセンティブ
6		6	組織のインセンティブ③理念的インセンティブ
7		7	組織のインセンティブ④自己実現的インセンティブ
8		8	企業文化①企業文化とは
9		9	企業文化②活力ある企業文化
10		10	企業文化③澱んでいる企業文化
11		11	日本的経営①日本的経営とは
12		12	日本的経営②終身雇用
13		13	日本的経営③年功主義
14		14	日本的経営④企業別組合・社内教育
15		15	経営学Ⅱのまとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート・課題(15%)、学習態度(15%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「ゼミナール経営学入門」伊丹・加護野著 日本経済新聞社	配布資料
関連のある授業科目	資格等
経営学Ⅰ	なし

経済統計

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期》

担当者

宇野木広樹

授業の概要

日本経済の現状を理解するためには、様々な経済統計を参照する必要があり、経済統計の理解が必要不可欠である。本講義では、経済分析に必要な経済統計の意味を理解するとともに、様々な経済統計をもとにして日本経済の現状を解説してゆく。

到達目標

経済統計の意味を理解し、データをもとに、日本経済の現状を理解することを目的とする。

事前事後学習

事前に講義で使用する配布資料を配るので、各自予習・復習をしておいてください。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	経済統計とは何か		
2	GDPとは何か(フローとストックについて)		
3	GDPとは何か(付加価値、総額と純額について)		
4	経済循環と三面等価の原則		
5	経済成長率		
6	寄与度・寄与率		
7	物価指数(パーシェ指数、ラスパイレス指数)		
8	失業率		
9	マネーストック		
10	為替レート		
11	一般会計予算		
12	公債残高		
13	株価		
14	まとめ1		
15	まとめ2		

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、定期試験(60%)、レポート課題(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
随時資料を配布する。	「経済統計入門」 中村隆英著 東京大学出版会
関連のある授業科目	資格等
経済学Ⅰ、経済学Ⅱ、国際経済論、総合政策論	なし

中小企業論

《4単位(講義)／経営福祉学科1年後期》

担当者

宇野木広樹

授業の概要

現在の日本経済を支えているのは一部の大企業ではなく、多くの中小企業である。中小企業は国民経済の礎であり、様々な技術やノウハウを持っている。中小企業の現状と特徴を理解することは、日本の経済、産業、流通、労働などを理解することにつながる。本講義では、中小企業を様々な観点から解説するとともに、学生の中小企業への理解の深化と関心を高める事を重視して進めていく。

到達目標

中小企業が経済において果たす役割と重要性、日本の中小企業の特徴を理解する。

事前事後学習

事前に講義で使用する配布資料を配るので、各自予習・復習をしておいてください。

授業計画(項目・内容)

回	後期	回	後期
1	企業とは何か、中小企業とは何か	16	流通環境の変化と規制緩和
2	中小企業の経済的役割	17	流通システムの変化と中小流通業
3	中小企業を取り巻く経営環境	18	東アジアでの事業展開
4	中小企業が抱える経営問題に対する課題と方策	19	経済のグローバル化と中小企業
5	中小企業の経営革新	20	イノベーションと中小企業
6	下請システムと中小企業	21	情報化、IT革命と中小企業
7	労働市場の構造と賃金格差	22	新規開業の展開と中小・ベンチャー企業
8	中小企業と労働問題	23	ベンチャー企業の成長と課題
9	中小企業と金融問題	24	競争環境の変化とマーケティング
10	産業集積の概念と理論	25	中小企業のマーケティング戦略
11	産業集積と中小企業	26	中小小売業と街づくり
12	地域産業と地域中小企業	27	サービス経済化と中小サービス産業
13	地域産業と地場産業	28	中小企業と多様なネットワーク
14	規模別産業連関表	29	中小企業政策とは何か
15	産業連関構造と中小企業	30	まとめ

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、定期試験(60%)、レポート課題(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
随時資料を配布する。	「現代中小企業論」, 高田亮爾 他著, 2013年版, 同友館
関連のある授業科目	資格等
経済学Ⅰ・経済学Ⅱ	なし

簿記

《4単位(講義)／経営福祉学科1年前期》

担当者

柴崎政俊

授業の概要

簿記初学者を対象に簿記の基礎から日商簿記3級程度の力の習得を目指す。簿記の力は問題やテキストを見ているだけでは付きません。実際に手を動かし、頭を使うことが大事です。それと粘りよく継続してやることです。

到達目標

簿記の流れは、取引の仕分け→試算表の作成→精算表の作成であることを理解する。出発点は、貸借対照表、損益計算書の勘定科目の理解であることから、ひとつひとつの勘定科目の意味の把握を心掛ける。

事前事後学習

事前にテキストの該当ページを良く読んでおくこと。
事後に講義の内容をノートをまとめておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	前期
1	簿記とは(簿記の意味、簿記の用語ほか)	16	掛け取引(売掛金、買掛金)
2	資産・負債・資本と貸借対照表	17	手形取引(受取手形勘定と支払手形勘定)
3	収益・費用と損益計算書	18	手形取引(約束手形、為替手形、裏書と割引)
4	取引と勘定記入	19	その他の債権・債務取引(貸付金、借入金ほか)
5	仕訳と転記	20	その他債権・債務取引(立替金、預かり金ほか)
6	試算表	21	売買目的有価証券(買い入れ、売却)
7	決算(決算とは・決算の手続き・振替と損益勘定)	22	固定資産取引(取得、売却)
8	決算帳簿決算・損益計算書・貸借対照表の作成)	23	個人企業の資本と税務取引
9	精算表	24	演習問題②
10	演習問題①	25	決算の手続き(決算、決算の手続き、決算整理事項①)
11	現金・預金取引(現金・現金力不足)	26	決算の手続き(決算整理事項①)
12	現金・預金取引(当座預金・当座借越)	27	決算の手続き(棚卸表、8欄精算表、BS、PLの作成)
13	現金・預金取引(小口現金)	28	決算の手続き(決算整理事項②)
14	商品売買取引(分記法と3分法)	29	演習問題③
15	商品売買取引(3分法による記帳)	30	伝票

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート・課題(15%)、学習態度(15%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「基本簿記」実教出版	
関連のある授業科目	資格等
簿記演習・会計学	※日商簿記3級受験

簿記演習

《2単位(演習)／経営福祉学科1年後期》

担当者

柴崎政俊

授業の概要

簿記の講義で学んだ知識で演習問題を数多く解く。

到達目標

日商簿記検定3級に合格できる程度の知識を身につける。

事前事後学習

基本簿記の該当ページを読み、復習しておくこと。
講義中に一度解くだけでは身につかないので、講義後も複数回解くこと。

授業計画(項目・内容)

回	後期	回	後期
1	簿記とは(簿記の意味、簿記の用語)	16	仕訳
2	資産・負債・資本と貸借対照表	17	貸借対照表、損益計算書の関係
3	収益・費用と損益計算書	18	伝票・月次合計試算表
4	取引と勘定記入・仕訳と転記	19	補助簿
5	試算表	20	精算表、貸借対照表、損益計算書
6	決算	21	演習問題①
7	精算表	22	演習問題②
8	現金・預金取引	23	演習問題③
9	商品売買取引	24	演習問題④
10	固定資産取引	25	演習問題⑤
11	個人企業の資本と税務取引、訂正仕訳	26	演習問題⑥
12	決算・決算整理手続き・決算整理事項①	27	演習問題⑦
13	棚卸表・8欄精算表・損益計算書と貸借対照表	28	演習問題⑧
14	決算整理事項②	29	演習問題⑨
15	伝票	30	その他講義

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、授業中に行なう演習・発表(70%)

テキスト

「基本簿記演習」 実教出版

参考文献・推薦図書

関連のある授業科目

簿記・会計学

資格等

※日商簿記3級受験

情報ビジネス論 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期》

担当者

村上亜由美

授業の概要

1、働くときのマナーの基礎知識
2、働くときのルールの基礎知識
3、その他

到達目標

社会人としてふるまえるようにマナーとは何か、歴史、しきたり、意味を理解し、実践できるようになる。

事前事後学習

*授業の前に、テキストの当該箇所を呼んでおくこと。
*配布資料は2穴となっており各自ファイルして保存すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	授業オリエンテーション	1	
2	マナーとは何か 歴史と意味	2	
3	国際人としてのマナー	3	
4	社会人に必要なマナー	4	
5	社交の場でのコミュニケーション	5	
6	会社の仕組み	6	
7	仕事の進め方	7	
8	電話対応のマナー	8	
9	来客対応のマナー	9	
10	ビジネス文書のルール ①書面のルール	10	
11	②電子メール他の基本	11	
12	食事のマナー	12	
13	しきたりについて	13	
14	国際的なビジネス展望 インバウンドについて	14	
15	「まとめ」	15	

成績評価基準及び方法

定期試験(60%)、学習態度、レポート(40%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「働くときのA・B・C」 (社団法人全国労働基準関係団体連合会 出版)	
関連のある授業科目	資格等
情報ビジネス論II	なし

情報ビジネス論 II

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期》

担当者

村上亜由美

授業の概要

実践を通して訓練することで社会人としてのふるまい方、就職活動の面接の際に役立つスキルを身に付けてもらう。

到達目標

学校を卒業しても生涯学習を継続して進められるスキルをマスターし、自分の目標・テーマを持って社会のため高い成果を達成できる人材になってもらうことです。

事前事後学習

* 授業の前に、テキストの当該箇所を呼んでおくこと。
* 配布資料は2穴となっており各自ファイルして保存すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	授業オリエンテーション
2		2	第一印象
3		3	身だしなみ
4		4	挨拶
5		5	発声法
6		6	お辞儀の仕方
7		7	お辞儀の実践
8		8	歩き方 座り方
9		9	丁寧な言葉遣い
10		10	聴き方話し方
11		11	自己PR作成
12		12	面接指導
13		13	労務管理
14		14	社会保険年金
15		15	「まとめ」

成績評価基準及び方法

試験(60%)、学習態度、レポート(40%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「働くときのA・B・C」 (社団法人全国労働基準関係団体連合会 出版)	
関連のある授業科目	資格等
情報ビジネス論 I	なし

コンピュータ概論

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期》

担当者

深町修一

授業の概要

コンピュータの原理やハードウェア、ソフトウェアなどの基本的な知識を習得する。さらに、情報を学ぶ上で必要な数学や論理学にもふれる。

到達目標

コンピュータを学ぶために必要な知識を学ぶだけでなく、プログラミングやシステム設計を学ぶ上で必要となる情報数学や論理学を身につける。

事前事後学習

講義中に練習問題を出すので、しっかりと復習しておくこと。次回に小テストを行う。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	前期
1	コンピュータの誕生と歴史	1	
2	ハードウェア1	2	
3	ハードウェア2	3	
4	ソフトウェア(OSとアプリケーション)	4	
5	Microsoft Windowsとその他のOS	5	
6	データベース	6	
7	n進数	7	
8	論理数学1	8	
9	論理数学2	9	
10	情報数学1	10	
11	情報数学2	11	
12	知的財産権等の情報関連法規	12	
13	コンピュータネットワーク	13	
14	セキュリティについて	14	
15	最近の動向	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、小テスト(20%)、定期試験(60%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
毎回プリントを配布	
関連のある授業科目	資格等
コンピュータリテラシー	なし

コンピュータリテラシー

《2単位(演習)／経営福祉学科1年前期》

担当者

深町修一

授業の概要

本講義では、パソコンの基本的な操作を学び、さらに社会人になるために必須となっているワードプロセッサ・表計算・プレゼンテーションのソフトウェアの操作方法を中心に学ぶ。また、インターネットを使っていく上で習得しておくべき情報セキュリティや情報モラルについて学ぶ。

到達目標

コンピュータの基本的な操作とオフィススイートの操作を習得することを目標とする。また、インターネットを利用した基本的なIT技術を身につける。

事前事後学習

演習中に行う演習については、時間内に終わらない場合は必ず次の演習までに終わっておくこと。また、小テストを行うこともあるので、必ず前回の復習をしておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	前期
1	パソコンの基礎知識 パソコンの基本操作1	16	Excel表作成 I 基本操作2
2	パソコンの基礎知識 パソコンの基本操作2	17	Excel 表作成 II グラフや計算式1
3	情報セキュリティーと情報モラル1	18	Excel 表作成 II グラフや計算式2
4	情報セキュリティーと情報モラル2	19	Excel 表計算 III 便利なツール1
5	Word 文書作成 I ページ設定、簡単な書式設定1	20	Excel 表計算 III 便利なツール2
6	Word 文書作成 I ページ設定、簡単な書式設定2	21	WordとExcelの連携1
7	Word 文書作成 II 画像ファイルやテキストボックスなど1	22	WordとExcelの連携2
8	Word 文書作成 II 画像ファイルやテキストボックスなど2	23	PowerPoint プレゼンテーション I テキストと画像1
9	Word 文書作成 III オートシェイプ1	24	PowerPoint プレゼンテーション I テキストと画像2
10	Word 文書作成 III オートシェイプ2	25	PowerPoint プレゼンテーション II マルチメディア1
11	Word 文書作成 III 表の操作1	26	PowerPoint プレゼンテーション II マルチメディア2
12	Word 文書作成 III 表の操作2	27	マイクロソフトOffice Word、Excel、PowerPoint以外のソフト
13	Word 文書作成IV 総合演習1	28	インターネット ブラウザの基本操作とE-メール
14	Word 文書作成IV 総合演習2	29	インターネット を利用したファイルのやり取り
15	Excel 表作成 I 基本操作1	30	まとめ

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、演習での成果(30%)、定期試験(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
毎回プリントを配布	
関連のある授業科目	資格等
コンピュータ概論	なし

社会福祉概論

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

久保英樹

授業の概要

人間の尊厳と自立、介護における尊厳の保持・自立支援について概説する。
(授業の目的・ねらい)
「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。

到達目標

1. 人間の多面的理解と尊厳について理解する。
2. 人間の尊厳の保持のための対応の仕方について理解する。
3. 自立と自律の考え方について理解する。
4. 介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎知識を習得する。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	人間の多面的理解①
2		2	人間の多面的理解②
3		3	人間の尊厳①
4		4	人間の尊厳②
5		5	人間の自立と自律の考え方①
6		6	人間の自立と自律の考え方②
7		7	人間の自立と自律の考え方③、確認テスト①
8		8	権利擁護とアドボカシー
9		9	人権尊重
10		10	身体的・精神的・社会的自立支援①
11		11	身体的・精神的・社会的自立支援②
12		12	介護における自立支援の方法 事例検討①
13		13	介護における自立支援の方法 事例検討②
14		14	尊厳保持と自立支援に関する制度 事例検討③
15		15	まとめ、確認テスト②

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、レポート(10%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解(第3版)」中央法規出版	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護領域を編成する科目	介護福祉士資格、社会福祉主事任用資格

社会の理解 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

久保英樹

授業の概要

生活と福祉、社会保障制度について概説する。
(授業の目的、ねらい)

1. 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人・家族・近隣・地域・社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する。
2. わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。

到達目標

1. 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人・家族・近隣・地域・社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する。
2. 個人・家族・近隣・地域・社会の単位で人間を捉える視点を養う。
3. わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	生活と福祉(生活の構造)	1	
2	生活と福祉(家族とは)	2	
3	生活と福祉(地域社会と個人、人と社会、組織)	3	
4	生活と福祉(現代におけるライフスタイルの変化)	4	
5	生活と福祉(生活の支援と福祉の体系)	5	
6	生活と福祉(社会制度と人間生活の関係)、確認テスト①	6	
7	社会保障制度(社会保障制度の基本的な考え方)	7	
8	社会保障制度(社会政策と社会福祉)	8	
9	社会保障制度(社会保障制度の歴史的発展)	9	
10	社会保障制度(社会保障制度の発達)	10	
11	社会保障制度(社会保障制度の仕組み①)	11	
12	社会保障制度(社会保障制度の仕組み②)	12	
13	社会保障制度(社会保障制度の仕組み③)	13	
14	社会保障制度(これからの社会保障の課題)	14	
15	まとめ、確認テスト②	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、確認テスト(10%)、レポート(10%)、定期試験(60%)

テキスト

「新・介護福祉士養成講座 第2巻 社会と制度の理解(第5版)」中央法規出版

参考文献・推薦図書

「介護福祉用語辞典」中央法規出版

関連のある授業科目

社会の理解II、介護領域を編成する科目

資格等

介護福祉士資格

介護基本 I

《4単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

黒木真吾

授業の概要

・介護福祉士を取り巻く状況について概説する。
・介護を必要とする人の理解について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

到達目標

①わたしたちの生活を理解することができる。
②介護を必要とする人を理解することができる。
③介護の働きと基本的視点を理解することができる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護の基本 I」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	前期	
1	介護を必要とする人の理解	16	社会課題としての高齢者介護	
2		生活とは何か	17	「その人らしさ」の背景
3		生活にとって大切な要素	18	
4			19	
5		生活の特性	20	生活様式、生活文化の多様性
6			21	
7		私たちの生活活動についての理解	22	変化する社会
8			23	介護福祉士を取り巻く状況
9		年齢とともに変化する私たちの生活	24	時代や文化の理解
10		生きることを支える介護①	25	利用者と生活環境
11			26	
12		生きることを支える介護②	27	介護における生活環境という視点
13			28	
14		29	人的な生活環境の重要性	
15		社会課題としての高齢者介護		30

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポートまたは定期試験(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第3巻 介護基本 I 第3版」中央法規出版	「七訂 介護福祉用語辞典」中央法規出版 「第16巻 資料編 第8版」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護過程、社会福祉概論、発達と老化の理解、ほか	介護福祉士資格

介護基本Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

水田哲弥

授業の概要

・尊厳を支える介護について概説する。
・自立に向けた介護について概説する。
・介護を必要とする人の理解について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

到達目標

①尊厳を支える介護とは何かについて説明できる。
②自立に向けた介護とは何かについて説明できる。
③介護を必要とする人の生活ニーズは何かについて説明できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護の基本Ⅰ」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	介護を必要とする人の理解～生活障害の理解と生活ニーズ
2		2	「生活障害」とは 「生活ニーズ」とは
3		3	介護とは
4		4	自立に向けた介護とは
5		5	「生活支援」としての介護とは 介護における倫理観
6		6	介護職が行う生活支援
7		7	様々な生活支援とその意義
8		8	尊厳を支える介護とは
9		9	ノーマライゼーションの実現
10		10	尊厳を支える介護～ 介護のはたらきと基本的視点
11		11	ICFの考え方
12		12	リハビリテーションの考え方
13		13	日常生活と社会生活の機能の維持・拡大への支援
14		14	
15		15	リハビリテーション専門職との連携

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本Ⅰ 第3版」中央法規出版	「七訂 介護福祉士用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護過程、社会福祉概論、障がいの理解、ほか	介護福祉士資格

介護基本 V

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

水田哲弥

授業の概要

・介護福祉士を取り巻く状況について概説する。
・介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて概説する。
・介護従事者の倫理について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解すると共に、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

到達目標

・介護福祉士を取り巻く状況について説明できる。
・介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて説明できる。
・介護従事者の倫理について説明できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護の基本Ⅱ」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	介護福祉士を取り巻く状況
2		2	介護福祉士を取り巻く状況と介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ
3		3	介護における専門職能団体の活動
4		4	介護従事者の倫理
5		5	職業倫理
6		6	介護学の先行研究から学ぶ
7		7	
8		8	求められる介護福祉士とは？
9		9	介護福祉士とは？
10		10	介護サービスと介護福祉士の働く場を考える
11		11	「介護とは？」をテーマに発表会
12		12	
13		13	介護の日フォーラム
14		14	フォーラム準備 フォーラム
15		15	高齢者サービス 在宅ケアと施設ケア

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ 第3版」中央法規出版	「七訂 介護福祉士用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会の理解、介護総合演習ほか	介護福祉士資格

コミュニケーション技術 I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

黒木真吾(11)・小野尚寿(4)

授業の概要

・介護におけるコミュニケーションの基本について概説する。
・介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション技法について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。

到達目標

①介護におけるコミュニケーションの基本(意義や目的など)について説明できる。
②適切なコミュニケーションの実践ができる。
③様々なコミュニケーション障害のある利用者を理解できる。
④レクリエーションを通しコミュニケーションの工夫ができる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「コミュニケーション技術 第2版」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	介護におけるコミュニケーションの基本(黒木)	1	
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8	施設レクリエーション(黒木)	8	
9		9	
10	在宅レクリエーション(黒木)	10	
11		11	
12		12	
13	聴覚障がい(小野)	13	
14		14	
15		15	

成績評価基準及び方法

出席状況および学習態度(50%)、レポートまたは定期試験(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術 第2版」中央法規出版	「七訂 介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、人間関係とコミュニケーション、認知症の理解、ほか	介護福祉士資格

コミュニケーション技術Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

松永智也(11)・中村久美(4)

授業の概要

・介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションについて概説・習得する。
・介護におけるチームのコミュニケーションについて概説・習得する。
(授業の目的、ねらい)
介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。

到達目標

①プロセスレコードについて学び、自己覚知と他者理解によって関係が深まっていく過程を理解することができる。
②介護現場での言語的コミュニケーションを基本として、非言語的コミュニケーション、準言語的コミュニケーションを学び、様々なコミュニケーション障害のある利用者を理解することができる。
③関係者と情報を適切に共有するために、記録や報告書を作成する意味を理解することができる。
④記録の種類と管理について理解すると共に、会議の重要性を理解することができる。

事前事後学習

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
授業後にはノートおよび資料の整理を行い、復習すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	
2		2	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション
3		3	コミュニケーション～視覚障がい～(中村)
4		4	点字をやってみよう
5		5	報告、連絡、相談の重要性
6		6	
7		7	介護におけるチームのコミュニケーション～
8		8	記録による情報の共有化について～(松永)
9		9	事例検討
10		10	会議の重要性
11		11	
12		12	情報の共有と個人情報保護
13		13	
14		14	介護におけるチームのコミュニケーション(松永)
15		15	文書作成
			プロセスレコード

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成校座 第5巻 コミュニケーション技術」中央法規出版	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
生活支援技術・介護実習 ほか	介護福祉士資格

生活支援技術 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

水田哲弥

授業の概要

・生活支援について概説する。
・自立に向けた身じたくの介護について概説する。
・自立に向けた移動の介護について概説する。
・自立に向けた排泄の介護について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

到達目標

①他の領域との関連性を理解できる。
②介護現場で使用される福祉用具や、介護予防について理解できる。
③在宅や施設での生活環境など、その特性を理解できる。
④安心して心地よい「生活の場」とは何かを理解できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「生活支援技術Ⅱ」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	生活を理解する視点と環境	1	
2		2	
3		3	
4	生活支援の基本的な考え方と自立に向けた身じたくの介護	4	
5		5	
6		6	
7	・自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基本的理解	7	
8		8	
9		9	
10	生活支援における介護	10	
11		11	
12	自立に向けた排泄の介護～排泄の意義・目的	12	
13		13	
14	課題別確認テスト	14	
15		15	

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ 第3版」中央法規出版	「七訂 介護福祉士用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護基本、コミュニケーション技術など	介護福祉士資格

生活支援技術Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

水田哲弥

授業の概要

・生活支援について概説する。
・自立に向けた身じたくの介護について概説する。
・自立に向けた移動の介護について概説する。
・自立に向けた排泄の介護について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

到達目標

①他の領域との関連性を理解できる。
②介護現場で使用される福祉用具や、介護予防について理解できる。
③在宅や施設での生活環境など、その特性を理解できる。
④安心して心地よい「生活の場」とは何かを理解できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「生活支援技術Ⅱ」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	生活を理解する視点と環境	1	
2		2	
3		3	
4	生活支援の基本的な考え方と自立に向けた身じたくの介護	4	
5		5	
6		6	
7	自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基本的理解	7	
8		8	
9		9	
10	生活支援における介護	10	
11		11	
12	自立に向けた排泄の介護～排泄の意義・目的	12	
13		13	
14	技術確認テスト	14	
15		15	

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、実技試験(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ 第3版」中央法規出版	「七訂 介護福祉士用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護基本、コミュニケーション技術など	介護福祉士資格

生活支援技術Ⅲ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

竹永 鴻

授業の概要

・自立に向けた居住環境の整備について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

到達目標

①人が安心して快適に暮らすために必要な慣用整備を習得する。
②他の領域との関連性を理解する。
③在宅や施設での生活環境など、その特性を理解する。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
授業後にはノートを確認しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期	
1	居住環境の整備とは	1		
2		2		
3	自立に向けた居住環境の整備～生活環境における居住環境整備の意義と目的	3		
4		4		
5		5		
6	居住環境のアセスメント	6		
7	高齢者住宅を考える	7		
8		8		
9	自立に向けた居住環境の整備～居住環境の整備	9		
10		施設入所中のA氏が自宅に帰るには？	10	
11		中古住宅の改修を課題に平面図を作成する	11	
12			12	
13	自立に向けた居住環境の整備～安心して快適な生活の場作り	13		
14		住まいの場における工夫・留意点	14	
15		集団生活の場における工夫・留意点	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、レポート又は定期試験(60%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ 第3版」中央法規出版	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護基本など	介護福祉士資格

生活支援技術Ⅳ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

黒木真吾

授業の概要

・自立に向けた入浴・清潔保持の介護について概説する。
・自立に向けた排泄の介護について概説する。
・自立に向けた睡眠の介護について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

到達目標

①他の領域との関連性を理解することができる。
②在宅や施設での生活など、その特性を理解することができる。
③利用者の状況に合わせた介護技術を理解することができる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	自立支援の入浴介護
2		2	入浴におけるアセスメント
3		3	入浴・清潔保持の介護 部分入浴の基本理解
4		4	清潔保持の基本理解
5		5	他職種の役割と協働
6		6	自立支援の排泄介護
7		7	排泄におけるアセスメント
8		8	排泄の介護 排泄における基本理解
9		9	
10		10	他職種の役割と協働
11		11	自立支援の睡眠介護
12		12	睡眠におけるアセスメント
13		13	睡眠の介護 安眠における基本理解
14		14	
15		15	他職種の役割と協働 他職種の役割と協働

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、定期試験またはレポート(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ 第3版」 中央法規出版	「七訂 介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、人間関係とコミュニケーション、発達と老化の理解、ほか	介護福祉士資格

生活支援技術 V

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

黒木真吾

授業の概要

・自立に向けた入浴・清潔保持の介護について概説・習得する。
・自立に向けた排泄の介護について概説・習得する。
・自立に向けた睡眠の介護について概説・習得する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

到達目標

①他の領域との関連性を理解することができる。
②在宅や施設での生活など、その特性を理解することができる。
③利用者の状況に合わせた介護技術を理解することができる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期	
1		1	入浴・清潔保持の意義	
2		2	入浴・清潔保持の介護	
3		3		入浴・清潔保持の目的
4		4		入浴介護技術
5		5		
6		6	排泄の介護	
7		7		排泄の意義
8		8		排泄の目的
9		9	排泄の介護技術	
10		10		
11		11	睡眠の介護	
12		12		睡眠の意義
13		13		睡眠の目的
14		14	睡眠の介護技術	
15		15	技術テスト 介護技術テスト	

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、実技試験またはレポート(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ 第3版」 中央法規出版	「七訂 介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、人間関係とコミュニケーション、発達と老化の理解、ほか	介護福祉士資格

生活支援技術Ⅶ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

山口亮治

授業の概要

・様々な障害に応じた生活支援について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

到達目標

①介護を必要とする方々の様々な状況・状態に応じた生活支援が理解できる。
②利用者の状況・状態に応じた生活支援技術が展開できる。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
授業後にノートを確認しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期	
1		1	運動機能障害とADL	
2		2	生活支援～運動機能障害に応じた介護 生活場面と支援	
3		3		介護技術の展開
4		4		心臓機能障害の理解
5		5	介護技術の展開	
6		6	腎臓機能障害の理解	
7		7	介護技術の展開	
8		8	呼吸器臓機能障害の理解	
9		9	生活支援～内部障害に応じた介護 介護技術の展開 膀胱・臓機能障害の理解 介護技術の展開 肝臓機能障害の理解 介護技術の展開 重複障害の理解 介護技術の展開	
10		10		
11		11		
12		12		
13		13		
14		14		
15		15		

成績評価基準及び方法

レポート及び学習態度(80%)、提出物(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ 第3版」中央法規出版、「リハビリテーションからみた介護技術」中央法規出版	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
からだのしくみ、介護基本など	介護福祉士資格

介護過程 I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

水田哲弥

授業の概要

・介護過程の意義について概説する。
・介護過程の展開について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

到達目標

①介護過程の意義と目的を理解することができる。
②生活支援の考え方と介護過程の必要性を理解することができる。
③ICFの考え方について理解することができる。
④介護を提供するためのアセスメントの必要性を理解する。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護過程」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期	
1	介護過程の意義・目的	1		
2		介護過程とは 介護過程における一連の流れ		2
3	介護過程の展開～ICFの考え方と介護過程	3		
4		ICFと介護		4
5		様々なアセスメント方式を知る		5
6		介護過程の全体像		6
7	介護過程の展開～情報収集の方法	7		
8		アセスメントとは		8
9		情報の収集		9
10	介護過程の展開～事例	10		
11		情報の解釈		10
12		アセスメント事例①		11
13	事例検討	12		
14		アセスメント事例②		12
15		アセスメント事例③		13
14		14		
15		事例を基にアセスメント表を作成する		15

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程 第3版」 中央法規出版	「七訂 介護福祉士用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、発達と老化の理解、認知症の理解、コミュニケーション技術、生活支援技術など	介護福祉士資格

介護過程Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

黒木真吾

授業の概要

・介護過程の展開について概説する。
・介護過程の実践的展開について概説する。
(授業の目的、ねらい)
他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

到達目標

①介護過程の展開のプロセスを理解することができる。
②介護過程の一連の流れを理解し、展開することができる。
③利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開を学ぶことができる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキストを読んでおくこと。
・授業時に使用した配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	介護過程の展開～介護過程の全体像
2		2	アセスメント、介護計画、実施、モニタリングの過程を理解する
3		3	介護過程の実践的展開～利用者を理解する①
4		4	生活歴、心身の状況等から考えるアセスメント
5		5	
6		6	
7		7	介護過程の実践的展開～アセスメント表の作成
8		8	アセスメント表作成の実際
9		9	
10		10	
11		11	介護過程の実践的展開～介護計画の作成
12		12	アセスメント表を参考に個別援助計画書を作成する
13		13	
14		14	介護過程の実践的展開～利用者を理解する②
15		15	実習先で受け持つ担当者の仮アセスメント表と仮個別援助計画書を作成する

成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、レポートまたは定期試験(60%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程 第3版」中央法規出版 実習のしおり	「七訂 介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、社会福祉概論、発達と老化の理解、ほか	介護福祉士資格

介護総合演習 I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

松永智也・水田哲弥・黒木真吾・久保英樹・小川亜矢子

授業の概要

介護実習 I aの実習を充実したものにするため、記録の書き方、研究の準備、介護技術の確認等を学ぶ。また、身だしなみ等、実習に必要な姿勢も同時に学ぶ。
(注)実習先オリエンテーション、実習指導、実習直前指導は、介護技術確認テスト・定期試験に合格した学生のみ、時間外で実施する。
・介護福祉士養成校における介護実習について概説する。
・他科目での学びの統合化について概説する。
・多職種協働の意味と重要性の意識化について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。

到達目標

- ①介護実習のあり方を理解できる。
- ②実習中に使用する記録類を記帳できる。
- ③実習先の事業や支援内容を理解できる。

事前事後学習

事前学習として、次回の授業内容についての指示をもとに準備をしておくこと。
事後学習として、授業内容を整理し理解すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	介護実習の意義と目的	1	
2	介護実習で何を学ぶのか	2	
3	実習前後の学びと活かし方	3	
4	介護実習とは	4	
5	介護実習 I aについて	5	
6	介護実習を知る	6	
7	実習先の説明	7	
8	施設概要の書き方・作成	8	
9	実習目標の説明	9	
10	実習目標の作成	10	
11	介護実習 I a へ向けて実習準備	11	
12	自己紹介書、個人情報に関する誓約書記入	12	
13	実習日誌の書き方について①	13	
14	実習日誌の書き方について②	14	
15	記録物等の準備、実習説明会の開催、及び個人面接	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 第3版」中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、発達と老化の理解、認知症の理解、コミュニケーション技術、生活支援技術、介護過程など	介護福祉士資格

介護総合演習Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

松永智也・水田哲弥・黒木真吾・久保英樹・小川亜矢子

授業の概要

介護実習Ⅰbの実習を充実したものにすため、実習Ⅰaの研究のまとめ、発表し、介護実習Ⅰbの自己課題や研究テーマを明確にし、高齢者施設介護に向けた準備を行う。また、課題別介護技術を習得する。

(注)実習先オリエンテーション、実習指導、実習直前指導は、介護技術確認テスト・定期試験に合格した学生のみ、時間外で実施する。

- ・介護福祉士養成校における介護実習について概説する。
- ・他科目での学びの統合化について概説する。
- ・多職種協働の意味と重要性の意識化について概説する。

(授業の目的、ねらい)

・実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じて総合的な学習を行う。

到達目標

- ①実習中に使用する記録類を記帳できる。
- ②自己が行う研究に関する準備ができる。
- ③実習で行われる基本介護技術を展開できる。
- ④実習先の事業や支援内容を理解できる。

事前事後学習

事前学習として、次回の授業内容についての指示をもとに準備をしておくこと。
事後学習として、授業内容を整理し理解すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	お礼状作成、提出物の確認
2		2	介護実習Ⅰa報告書の作成①
3		3	介護実習Ⅰa報告書の作成②
4		4	介護実習Ⅰa報告書の作成③
5		5	介護研究を知る 2年生の介護研究発表会の聴講
6		6	介護実習報告会Ⅰa 自己の実習を報告する
7		7	
8		8	介護実習Ⅰbについて
9		9	実習先の説明
10		10	介護実習Ⅰb実習準備 施設概要の書き方・作成
11		11	実習目標の説明
12		12	実習目標の作成
13		13	
14		14	介護技術確認テスト 課題別介護技術確認テスト
15		15	

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 第3版」中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護過程、生活支援技術、社会の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士資格

介護実習 I a

《2単位(実習)／経営福祉学科1年前期集中・介護必修》

担当者

松永智也・水田哲弥・黒木真吾・久保英樹・小川亜矢子

授業の概要

本実習では、訪問介護事業所と通所介護事業所で計12日間の実習を実施するものとする。
(授業の目的、ねらい)
・個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

到達目標

- ①本学の書式を活用し、受け持ち利用者のアセスメントの方法が理解できる。
- ②介護技術の確認を行い、様々な技術を身につける。
- ③多職種協働や関係機関との連携を理解する。
- ④介護福祉士の役割について理解する。

事前事後学習

実習の事前学習として、実習受け入れ先について調べておくこと。
事後学習として実習報告書を作成すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
	◆期日 1年次:8月(12日間) (土日・祭日・中間指導含まず) ◆実習先 ①訪問介護(3日間) ②通所介護(9日間) ◆目標 ①本学の書式を活用し、受け持ち利用者のアセスメントの方法が理解できる。 ②介護技術の確認を行い、様々な技術を身につける。 ③多職種協働や関係機関との連携を理解する。 ④介護福祉士の役割について理解する。	1	
		2	
		3	
		4	
		5	
		6	
		7	
		8	
		9	
		10	
		11	
		12	
		13	
		14	
		15	

成績評価基準及び方法

実習先評価(50%)、実習巡回時における面接評価(50%)

テキスト

「新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 第3版」中央法規出版 ・ 実習のしおり

参考文献・推薦図書

「介護福祉用語辞典」中央法規出版

関連のある授業科目

社会福祉概論、発達と老化の理解、認知症の理解、コミュニケーション技術、生活支援技術、介護過程、介護総合演習など

資格等

介護福祉士資格

介護実習 I b

《2単位(実習)／経営福祉学科1年後期集中・介護必修》

担当者

松永智也・水田哲弥・黒木真吾・久保英樹・小川亜矢子

授業の概要

本実習では、特別養護老人ホームまたは介護老人保健施設のうち、いずれか1つの施設で合計12日間の実習を行うものとする。
(授業の目的、ねらい)

・個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

到達目標

- ①受け持ち利用者のアセスメントと個別介護計画、実施といった介護過程の展開ができる。
- ②関係機関との連携やチームケアの実際を把握する。
- ③医療職と介護職の役割の違いについて理解する。
- ④在宅復帰に向けた支援を理解する。

事前事後学習

実習の事前学習として、実習受け入れ先について調べておくこと。
事後学習として実習報告書を作成すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1			◆期日 1年次:2月(12日間) (土日・祭日・中間指導含まず)
2			
3			◆実習先 特別養護老人ホームまたは介護老人保健施設
4			
5			◆目標【第1週】 ①施設のスケジュールを把握すると共に、日常生活上の介護技術を習得する。
6			②実習指導者の指導を受け、受け持ち者のアセスメント、計画の作成を行う。
7			
8			◆目標【第2週】 ③介護計画に基づく実施を展開する。
9			④関係機関との連携やチームケアの実際を把握する。
10			⑤医療職と介護職の役割の違いについて理解する。
11			⑥在宅復帰に向けた支援を理解する。
12			
13			
14			
15			

介護技術の実践を軸とした介護実習をおこなう。

成績評価基準及び方法

実習先評価(50%)、実習巡回時における面接評価(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 第3版」中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護過程、生活支援技術、社会の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士資格

発達と老化の理解 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

小川亜矢子

授業の概要

・人間の成長と発達の基礎的理解について概説する。
・老年期の発達と成熟について概説する。
・老化に伴うところとからだの変化と日常生活について概説する。
(授業の目的、ねらい)
発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。

到達目標

- ①人間の成長と発達の基礎について理解できる。
- ②老年期の発達と成熟について説明できる。
- ③老化に伴うところとからだの変化と日常生活について説明できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	人間の成長と発達の基礎的理解～人間の成長と発達,発達課題と個人差	1	
2	人間の成長と発達の基礎的理解～人間の発達段階と発達課題と個人差	2	
3	老年期の発達と成熟～老化がおよぼす心理的影響	3	
4	老年期の発達と成熟～老いの価値観・受容、老年期の発達課題の留意点	4	
5	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～高齢者のところの問題と精神障害	5	
6	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～心理的影響、老いの価値観・受容	6	
7	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～身体的機能の変化と日常生活への影響 外見上の変化、免疫機能の変化	7	
8	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～身体的機能の変化と日常生活への影響 感覚機能の変化	8	
9	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～知的機能の変化と日常生活への影響 咀嚼・消化機能の変化	9	
10	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～知的機能の変化と日常生活への影響 循環器系の変化	10	
11	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～知的機能の変化と日常生活への影響 呼吸器系の変化	11	
12	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～知的機能の変化と日常生活への影響 骨・関節系、体温維持機能の変化	12	
13	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～加齢に伴う身体機能の変化と日常生活への影響まとめ	13	
14	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～知的機能の変化と日常生活への影響	14	
15	まとめ	15	

成績評価基準及び方法

定期試験(60%)、学習態度(20%)、レポート(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第11巻 発達と老化の理解」第3版 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、介護総合演習	介護福祉士資格

発達と老化の理解Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

小川亜矢子

授業の概要

・高齢者と健康について概説する。
(授業の目的、ねらい)
発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。

到達目標

①高齢者と健康について理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	高齢者と健康～高齢者の症状・疾患の特徴
2		2	高齢者と健康～高齢者に多い症状・訴えとその留意点
3		3	高齢者と健康～高齢者に多い症状・訴えとその留意点
4		4	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 生活習慣病
5		5	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 骨・関節疾患
6		6	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 口腔、目、耳の疾患
7		7	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 皮膚、呼吸器系の疾患
8		8	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 腎・泌尿器系の疾患
9		9	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 消化器系の疾患
10		10	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 循環器系の疾患
11		11	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 婦人科系の疾患
12		12	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 脳・神経系の疾患
13		13	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 精神の病気、特定疾患の疾患
14		14	高齢者と健康～保健医療職との連携について
15		15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(60%)、学習態度(20%)、レポート(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第11巻 発達と老化の理解」第3版 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、介護総合演習	介護福祉士資格

認知症の理解 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

松村章子

授業の概要

- ・認知症を取り巻く状況について概説する。
 - ・医学的側面から見た認知症の基礎について概説する。
 - ・認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活について概説する。
- (授業の目的、ねらい)

認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する

到達目標

- ①認知症を取り巻く状況について理解できる。
- ②医学的側面から見た認知症の基礎について理解できる。
- ③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活について理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	認知症を取り巻く状況～認知症の人の生きる世界	1	
2	認知症を取り巻く状況～認知症ケアの歴史、理念と視点	2	
3	医学的側面から見た認知症の基礎～認知症とは？診断と治療	3	
4	医学的側面から見た認知症の基礎～認知症の原因疾患	4	
5	医学的側面から見た認知症の基礎～認知症の人の行動	5	
6	医学的側面から見た認知症の基礎～認知症の人の生活	6	
7	医学的側面から見た認知症の基礎～認知症の人の介護	7	
8	医学的側面から見た認知症の基礎～認知症の人に対する介護～認知症のひとへのかかわり	8	
9	医学的側面から見た認知症の基礎～初期の認知症への介護、中期の認知症への介護	9	
10	医学的側面から見た認知症の基礎～後期の認知症への介護	10	
11	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活～特徴的な心理的影響と行動障害	11	
12	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活～周辺症状の背景にあるこころの理解	12	
13	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活～認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響	13	
14	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活～認知症の特性を踏まえたアセスメント	14	
15	まとめ	15	

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(10%)、レポート(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第12巻 認知症の理解」第3版 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、介護総合演習	介護福祉士資格

認知症の理解Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

松村章子

授業の概要

- ・認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活について概説する。
- ・認知症の方をサポートする為の連携と協働について概説する。
- ・認知症の方の家族の支援について概説する。

(授業の目的、ねらい)

認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

到達目標

- ①認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活について理解できる。
- ②認知症の方をサポートする為の連携と協働について理解できる。
- ③認知症の方の家族の支援について理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活～認知症の人を支える介護の仕事
2		2	連携と協働～地域におけるサポート体制、チームアプローチ
3		3	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活～グループ毎にまとめる(認知症とは？全体像をGWを通して考える)
4		4	
5		5	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活～
6		6	～事例検討～
7		7	実習で体験した事例からのディスカッション・検討・考察発表(実習の経験から)
8		8	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活～
9		9	認知症に関する最新情報を探る 報道、記事、インターネットを利用(レポートを作成し提出)
10		10	家族への支援～認知症の人に対する介護について(GW)
11		11	家族への支援～認知症の人に対する介護について発表・まとめ
12		12	家族への支援～認知症受容のための援助
13		13	家族への支援～家族のレスパイト
14		14	連携と協働～認知症に関する諸制度および関係機関
15		15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(10%)、レポート(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第12巻 認知症の理解」第3版 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、介護総合演習	介護福祉士資格

からだのしくみ I

《4単位(講義)／経営福祉学科1年通年・介護必修》

担当者

篠原 淑子

授業の概要

・こころのしくみについて説明する。
・からだのしくみについて説明する。
・身じたく、移動、食事に関連したところとからだのしくみについて概説する。
(授業の目的、ねらい)

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解することを目的とする。

到達目標

- ①こころのしくみについて説明できる。
- ②からだのしくみについて説明できる。
- ③身じたくに関連したところとからだのしくみについて理解できる。
- ④移動に関連したところとからだのしくみについて理解できる。
- ⑤食事に関連したところとからだのしくみについて理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	こころのしくみの理解～人間の欲求とは、基本的欲求・社会的欲求等について	16	身じたくに関連したところとからだのしくみ～テキスト課題(演習)
2	こころのしくみの理解～自分の生活で考えてみよう、テキスト課題	17	身じたくに関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応
3	こころのしくみの理解～自己概念と尊厳、生きがい等について	18	身じたくに関連したところとからだのしくみ～テキスト課題(演習)
4	こころのしくみの理解～自分の生活で考えてみよう、テキスト課題(演習)	19	移動に関連したところとからだのしくみ～基礎知識
5	こころのしくみの理解～こころのしくみの基礎①	20	移動に関連したところとからだのしくみ～テキスト課題(演習)
6	こころのしくみの理解～こころのしくみの基礎②	21	移動に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が移動に及ぼす影響
7	こころのしくみの理解～自分の生活で考えてみよう、テキスト課題(演習)	22	移動に関連したところとからだのしくみ～テキスト課題(演習)
8	からだのしくみの理解～生命の兆候について	23	移動に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応
9	からだのしくみの理解～自分の生活で考えてみよう、テキスト課題(演習)	24	移動に関連したところとからだのしくみ～テキスト課題(演習)
10	からだのしくみの理解～からだのしくみの基礎①	25	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～基礎知識
11	からだのしくみの理解～からだのしくみの基礎②	26	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～テキスト課題(演習)
12	からだのしくみの理解～ボデイメカニクス、テキスト課題(演習)	27	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が食事に及ぼす影響
13	身じたくに関連したところとからだのしくみ～基礎知識	28	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～テキスト課題(演習)
14	身じたくに関連したところとからだのしくみ～あなたはどうなる？、テキスト課題(演習)	29	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応
15	身じたくに関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が身支度に及ぼす影響	30	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～テキスト課題(演習)

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(10%)、レポート(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第14巻 こころとからだのしくみ」 第3版中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、介護総合演習	介護福祉士資格

医療的ケア概論 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

小川亜矢子

授業の概要

医療的ケア実施にあたっての基礎知識として、関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などを学習する。

到達目標

- ①医療的ケアに関してチーム医療と連携の必要性が説明できる。
- ②安全にたんの吸引や経管栄養を提供する重要性を説明できる。
- ③感染予防について、説明できる。
- ④健康状態の把握ができ、急変状態の対応と報告ができる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	人間と社会 ①個人の尊厳と自立、②医療の倫理、③利用者や家族の気持ちの理解	1	
2	保険医療制度	2	
3	医行為に関する法律とチーム医療と介護職員との連携	3	
4	安全な療養生活(1)痰の吸引の安全な実施	4	
5	安全な療養生活(2)経管栄養の安全な実施	5	
6	安全な療養生活(3)痰の吸引と経管栄養のリスクマネジメント、ヒヤリハット	6	
7	安全な療養生活(4)救急蘇生法①	7	
8	安全な療養生活(5)救急蘇生法②	8	
9	清潔保持と感染予防(1)感染予防、職員の感染予防	9	
10	清潔保持と感染予防(2)療養環境の清潔、消毒法	10	
11	清潔保持と感染予防(3)滅菌と消毒	11	
12	健康状態の把握(1)身体・精神の健康	12	
13	健康状態の把握(2)健康状態の観察法、バイタルサイン	13	
14	健康状態の把握(3)急変状態について	14	
15	まとめ	15	

成績評価基準及び方法

定期試験(60%)、学習態度(20%)、レポート(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア」第3版 中央法規出版	「資料編」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
からだのしくみ	医療的ケア 基本研修修了

医療的ケア概論Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

小川亜矢子

授業の概要

喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する。

到達目標

- ①呼吸のしくみと痰の吸引について説明できる。
- ②安全で適切なたんの吸引の手順が説明できる。
- ③たんの吸引を必要とする人の日常生活の変化に気づき、医療者に報告することができる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	高齢者及び障害児・者の「たん吸引」概論
2		2	呼吸のしくみとはたらき、いつもと違う呼吸状態
3		3	たんの吸引とは
4		4	人工呼吸器と吸引①
5		5	人工呼吸器と吸引②
6		6	子どもの吸引について
7		7	吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意、呼吸器系の感染と予防
8		8	たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認
9		9	急変、事故発生時の対応と事前対策及び障害児・者の「たん吸引」実施手順解説
10		10	たんの吸引で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔の保持
11		11	吸引の技術と留意点(1)必要物品の準備と利用者の状態観察
12		12	吸引の技術と留意点(2)吸引の実施手順と留意点
13		13	吸引の技術と留意点(3)吸引実施に伴う利用者の身体変化
14		14	吸引の技術と留意点(4)吸引物の確認、記録と報告、痰の吸引に伴うケア、後片付け
15		15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(60%)、学習態度(20%)、レポート等の提出物(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア」第3版 中央法規出版	「資料集」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
からだのしくみ	医療的ケア 基本研修修了